

72 知多半島に最強の城を築こう！！

要旨 自分たちの住んでいる知多半島の地形や商業的に発展していた港などを調べ様々な観点から知多半島を分析し、どこに城を建てたら敵に落とされにくい城になるかを探究する。そして防御に適した地点を決め、その地点に地形を生かした防御や人工的な城の仕掛けを使って落とされにくい城を紙面に再現する。

1 研究背景と研究目的・意義

1.1 研究背景

ここでは、タイトルにある“最強の城”を敵から最も落とされにくい城と定義して研究を進める。今回城を建てる時代は、現代ではなく戦国時代と定める。現代の城を建てる
と防衛施設としてではなく、観光施設などとして扱われることが多いため、敵が攻めてくる戦国時代に城を建てることにする。

1.2 リサーチクエスチョンと先行研究・事例

リサーチクエスチョン：“知多半島に最強の城を築くことにより、城についての関心を高められる”。

先行研究では城の防御遺構を把握することにおいて「縄張り図」を書くことが重要であるため実際にかいてみる。

1.3 研究の目的・意義

日本独自の建築技術である城の設計方法を学び、実際に作ってみることで城についての関心を高める。また、実際に作った城を発表することで日本の建築技術を知らない人々に知ってもらう。

1.4 仮説とその根拠

戦国時代のさまざまな城の建築技術を組み合わせることですぐれた防御技術を組み込んだ城を建築することができる。

2 研究方法 実験・観察・調査のタイトルを書こう

2.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

視覚的に分かりやすく図面やイラストに表すことで日本の建築技術を広めるという目的

を果たせる。

2.2 研究と分析方法

1. 地理院地図を用いた測定

地理院地図の断面図測定機能を使い、平面の地図をわかりやすくする

2. 城の建築様式についての文献を読む。

城の縄張りの構造を知ることで参考にする。

2.3 結果

平山城を建てる際は堀や石垣、土塁で区切られた区画である曲輪や土塁を使用すると防衛に効果的である。

城を中心に発展した町である城下町は居住目的の他にも敵の進軍を遅らせるといった城の防御的役割がある。

城を防御するには敵の進軍を食い止めることについて考慮するだけでなく、兵糧攻めをされた時のことも想定して食糧や装備品などの物資の搬入をできるルートを確認しておくことも不可欠である。

2.4 考察

城の建築場所について

知多半島は北側が平野で南側が山がちな地形になっている。

平山城は高所からの展望に優れている山城の特徴と城下町の整備が容易で経済的に効果のある平城の特徴を兼ね備えており知多半島の地理的要因、社会的要因を調べた結果、港が近く、丘陵の地形である常滑市本宮山周辺に平山城を建てることにした。

そして平山城で防御力を発揮する仕掛けである土塁と堀を使用することにした。

また、西側は江戸と上方（大阪）との貿易で経済的に発展した常滑港に隣接した城下町を建設する。城下町は隙間なく建物が連なっており、要所に門を設置することによって防御に役立てることができる。

また、本宮山周辺には伊勢湾に流れる樽水川が流れており、この川を掘削することによって物資を運ぶことができるようにし、食料を運ぶことで兵糧攻めに備えることができる。実際名古屋城には堀川という物資の運搬のために人工的に開削されている水路が存在するため、物資の運搬のための水路を整備することは城の防御に有効であると考えられる。

3 結論と今後の展望

3.1 結論

知多半島の南部にある常滑市本宮山周辺は標高が高く、防御に適した地形であるため、山城を築く場所とした。防御力を高めるために土塁や曲輪、馬出、堀、馬防柵を設置する。さらに、西側にある常滑港に隣接した城下町を整備し、経済と防衛の面で優れた城を築城する。

3.2 今後の展望

城周辺は考えられたため今後は城の象徴でもある天守の内部について研究する。

4 謝辞

今後の人生を彩る素晴らしい知見を得られ、似たような研究テーマである班と意見を交わし合って優れた結果にできたと感じる。